

巻頭言

スカウティングは、野外でする、愉快的ゲームである——そこで少年達が、心を失わぬ大人と子供が兄と弟のように一緒になって冒険をしてみたり、健康と幸福と、工作と人助になることを収獲する。このような団体がどこにあるでしょうか。



予 告

朝霧高原
(元第13回世界ジャンボリーアリーナ会場)
51年度県大会が開催予定されました。
今から準備をしよう。

新春弥栄

昭和51年元旦



日本ボーイスカウト静岡連盟浜松地区委員会



新年のごあいさつ

日本ボーイスカウト静岡県連盟長
静岡県知事 山本敬三郎

明けましておめでとうございます。
皆様おそろいで、昭和51年の新春をお迎えのことと存じます。

私は一昨年11月10日、ボーイスカウト・ガールスカウト静岡県大会西部大会において、静岡県連盟長に推薦され、就任いたしました。県政をお預りする知事と云う立場と共に、その責任の重大さに身の引きしめる思いであります。

さて、本県は輝かしい日本ボーイスカウトの発祥の地でもあり、50有余年にわたる歴史をもつ本県のスカウト運動は、先輩諸氏のたゆまないご努力とご指導により年々そのスカウトの数も増加し、その運動も活発に進められておりますことは誠に喜ばしいことでもあります。

経済の不況を始めとして、今や国の内外を問わず激動の時期を迎え本年はその試練の時だとさえいわれる情勢の中で、明日の静岡県を担い、新しい日本

の国を興す力として青少年への期待は最も大なるものがあります。

私は青少年の健全育成の上でボーイスカウト、ガールスカウト活動に大いなる希望と期待を寄せている一人として、日頃ボーイスカウト運動に関係されておられる皆様を初めとし、指導者の方々の献身的なご努力に対しまして深く敬意と感謝を申し上げます。

またスカウト諸君も、スカウト活動を通じて不屈の精神、強じんな体力を、勇気と友愛の絆の上で日々に鍛え、つねにそなえ、その培う力をやがて郷土のためにふるいたたせることを心に刻まれ、精進されることを切望してやみません。

今後とも益々この運動が発展するよう祈念し、皆様のご健康とご多幸をお祈りして新年のあいさつとします。



新年号に寄せて

浜松市長 平山博三

あけましておめでとうございます。

皆さま、おそろいで希望に満ちた新春をお迎えのことと存じます。心からお慶びを申し上げます。

新春を迎え皆さまの希望は大きくふくらみ、新鮮な夢が一杯でありましょう。新しい年の大きな希望と計画は非常に尊いものであります。

「果てしない人類の大きな希望」これは世界の完全平和であります。皆さんはその一翼を担い世界各地において行なわれているスカウト運動に加わり親善の役割を果たしておられるのであります。

次代を担う皆さんが、あらゆる試練を乗り越え、苦難に耐え、よく指導者の教えを守り、正義と規律と勤勉を尊び、社会奉仕の仕事にも輝かしい活躍をされている姿には、私たち大人にも大いに学ばされるものがあります。

平素、野や山であるいは街頭で皆さまの規律ある姿にふれる多くの人達は、日本の明るい将来を夢みることでしょう。私は皆さま方がスカウト活動とおして、いつでもどこでも、人々の心にすがすがしさを与えてくださる一人のスカウトであることを心から願います。

どうか、今後ともよき指導者のご尽力と隊員諸君の努力によって、より一層立派な隊づくりに励まれベーデン・パウエル卿の創始の精神を心として、いっそう立派なスカウトとしての道に励まれることを希望しまして、新春のごあいさつといたします。



新頭によせて

浜松地区委員長 内田時世

新年おめでとうございます。本年は昭和半世紀を一歩ふみ越えた年に当たります。日本の現状を見るに益々ボーイスカウト運動の必要性をさげばずにはいられない世情ではないでしょうか。国家愛を正しくしっかりと植えつけることが教育の原点と考えます。幸なことにスカウト教育の「ちかい」の第一に「神（仏）と国とに誠を尽し、おきて、を守ります」とあります。真の愛国者をつちかうためにも今こそ私達はスカウト精神を通じて指導者自らが国を愛する心を理解し、自信を持った本物のリーダーになることを願っております。今日の少年達は孤独と一人遊びを楽しみにしている傾向にあるといわれています。「皆んなと仲よく生活しよう。お互いに助け合おう」という考えは少ないようです。然しスカウト活動をしている少年にはこんな姿はないはずですが、残念なことですが今日の日本の少年達は「抵抗の感覚」を持って生きていないのです。気ままな発想で、快楽や幸福をつくらうとしているのです。実態を考えようとしただけに、いったんまちがえると非常に危険だとも思います。いろいろの抵抗の感覚を身につけ、それを土台にして、大人になって、スカウト達が本当の民主主義を身につけ国を愛する日本人になるように、私達指導者は「おきて」と「やくそく」の実行によるスカウトの道の指導に今年も奉仕をしていきたいと思います。

弥 栄



新年のことば

浜松地区協議会長 吉沢純道

1976年我等ボーイスカウトの新春を迎え、三つのちかいと十二のおきてのもと、謹んで弥栄を唱え御祝い申し上げます。昭和29年浜松を中心として遠州地方に発展拡大を見て、20有余年を歳月を経た。是れ一途に隊長を中心として、関係者の絶大なる尊き奉仕の誠意の賜物である。私の中学時代の友人が、80才にして猶壯者を凌ぐ元気に、山梨勝沼の寺で、葡萄園を経営している。昨年欧州各地を視察した。自分が、百姓をしているので、英仏独伊の土壌を検査して見た。日本と比べて、粘と艶がない。第一湿気が無い。経済的にも、日本と比べて貧弱である。日本はよくも、このように戦后敗戦の焼土から立上ったものだと、自らを更に鞭ついていた。この話を聞いて、私は思った。ジャンボリーへ

参加して感じたが、日本ボーイスカウトは、外国スカウトと比べて、少しも劣ってはいない。日本ボーイスカウトこそ、世界一ではないかと思った。私共日本ボーイスカウトは、世界一の自覚を以って、お互に自分自身を磨くと共に、永遠のスカウトの道を歩んで行こうではありませんか。一人一切人。一切人一人、という言葉がある。一人の中に一切の人々の影の力がある。一切人の中から、一人をはぐくみ生長させる御縁が培かれている。世の中は、皆んな網の目のように、かかわりがあることを教えている。示している。昭和50年度静岡県大会9月28日の中田島海岸に於て、元気千倍のBS諸君の澆刺たる行動を見て、又五千になんなんとする人々を見て、私は考えた。サトウハチロウの詩ではないが『この世でこよなく美しきもの、そは、ボーイスカウトなり。そはボーイスカウトなり。この世で、こよなく美しき心、そはボーイスカウトなり。』更に『人と人とながりの美しき。人と人との出あいの不可思議さ。尊きそは、人々の祈りと一念である』終りに、各隊の弥栄と健康を祈念いたします。

新年のあいさつ

地区副委員長 宮沢広士

1775年から1875年までの1世紀は英国が汽車によって世界を支配した。1875年から1975年に至る1世紀は米国が自動車によって支配した。1975年から以降の1世紀はどの国が世界を支配するだろうか。世界の論説はそれは日本だと言っている。果して日本が世界を征覇することが出来るかどうかは解らないが75年と云う年は世の中の変わり目になって来たと言うのは歴史上の事実である。この75年と云う年を境に世の中が変わってゆくとするならば今年1976年になるので今年こそ新しい1世紀に向って大きく変わってゆくかもしれない。昨年はインフレの中の不況が続いた。今年からの1世紀は決して今までの様な明るさのない蔭の年になってゆくものと思われる。こんな時代こそ教育にこそ力を注がなければならない時だと思ふ。

学校教育もその制度や内容が改革されようとしてBS運動も新しい研究に取組んでいかなければなら



ない時代だと思ふ。昨年10月私は栃木県第1期CS研修所の所長として奉仕した。そして10日後に静岡第11期のCS研修所に奉仕した。そして私の感想は静岡県指導者層の厚さである。然も山形県や岡山県から浜松の研修所に参加した人々の声を聞いても、すぐれた先進県であることは間違いない。このスカウト先進県の名譽の為にも今年こそ!!今こそ!!スカウティングを SCOUTING IS OPPOTUNITY をもって前進したいとのぞんでいる。

年頭所感

地区コミショナー 三輪悦爾

新年明けまして、おめでとうございます。

さて、本年は、日連が打出した、組織拡大第5次5カ年計画の4年目を迎える年になりました。関係者の努力により、着々とその成果が上りつつありますことは、誠によろこばしい限りであります。

スカウト人口が増える事は非常に大切な事ですが、当然考えなければならない事は、質も伴って向上してゆかなければなりません。

その1つとして、特に指導者自身の研さんは云うまでもありません。調査、研究を常に心がけ、新鮮な考えの上で、スカウト達に接する必要があります。

そして隊長の為に開設される研修所コースは、必修であり、都合をつけ、なるべく早い期間に履修する事が望ましい姿であります。未履修者は、本年は是非履修するよう心掛けて頂きたい。

尚併せて、実修者コースも考慮に入れて頂く事も指導者として大切な事であります。

その2として取り上げたい事に、団委員活動の充

実化であらうと思ひます。

団委員活動の如何によって団の進展、後退にかかって来る事は過言ではありません。せめてこの運動の歴史、あるいは教育の概要などはご理解していただかないと困るわけです。それはとかく、カブの活動がボーイの活動の延長かと思ひ又、ボーイの活動がシニア活動の延長かと思ひられている方がありますが、それはまったく間違っております。頭の切替えをして頂きたい一つです。

どうかそういう意味でも、団委員研修会には沢山の方々の参加をおすすめ致します。

指導者が心おきなく教育に専念出来るよう、バック・アップをお願いしたい。

その3として、待望のボーイ、シニアに関する進歩改訂が正式に結論を見る年になろうかと存じます。特修章の問題、グリーンシニアの問題等各指導者は、これらの問題に取組む為真剣に、体当たりをしてゆきたいものです。

大人が子供達の為に奉仕をする団体であるという事をもう一度考えて見ようではありませんか。

謹 賀 新 年

<p>浜松地区副委員長</p> <p>宮沢広士</p>	<p>浜松地区副委員長</p> <p>杉山友男</p>	<p>浜松地区進歩委員長</p> <p>中嶋圭介</p>
<p>浜松地区野営行事 委員長</p> <p>竹村徳一</p>	<p>浜松地区健康安全 委員長</p> <p>長尾静夫</p>	<p>浜松地区財政委員長</p> <p>金森武夫</p>
<p>浜北第1団</p> <p>監事 三井坂小外坂 原 室口東倉山</p> <p>三夫 清江茂吉 渡副美嘉保毅</p> <p>馬淵 坂平山布奥 東野下施野</p> <p>要人 慶正正隆嘉 一昭義三一</p> <p>團委員長 伊藤本 副委員長 利三吉芳 委員 信郎勝郎</p> <p>育成会 青島兼治 副会長 藤森孝男</p> <p>杉手小横 山塚杉田</p> <p>友男保弘 清雄</p>	<p>浜松第4団</p> <p>R S B C 團團 S S 副S 副 S 委員 隊副隊長隊長 副隊長 委員 長長長補長 長長 員長</p> <p>野鈴野森千淺鈴西松牧吉鈴松後山内 口木口田葉井木野井野田木井藤葉田</p> <p>由ひ 仲伸 忠義慧寅時 光 光和美と仲伸 忠義慧寅時 一実一明聡世み子篤績一平男真雄世</p>	<p>浜松第7団</p> <p>S B C 團副團副育 S S S 委員委員成 隊副隊長副隊長員會長 長長長長長長長長</p> <p>板酒浦長鳥浦北永一森光菊勝谷 倉井上谷嶋上川田同千太四計教久 昭一勝勝桂ち良通 郎郎郎郎司雄 二三房信子よ雄児 郎郎郎郎</p>
<p>浜北第2団</p> <p>B C 團 S 隊 松委員 桐大 松委員 畑須長 尾田 守進 賀英直 進昭寬</p> <p>育成会 青島兼治 副會長 藤森孝男</p>	<p>浜北第4団</p> <p>リ 團育 ボー ー 委成 カウ ダ 員会 ト 一 同</p>	<p>浜松第12団</p> <p>團委員長 中嶋圭介 團委員 一同</p>
<p>浜北第3団</p> <p>健野進指組財副団会育育 康營 導者織政団委 成成 安行 抄業批政団委 成成 事安 事業業張委委員 副副 長全 委委成委委員 員員 隊隊 長長長長長長長長 長長</p> <p>高平村阿大藤伊竹野松市山松竹鈴中山阿平大 田松部橋原藤藤内口下川本下内木野下部松城 寸ま不 信 総 達 幹全弘み史り保二英敏 康雄郁岩太淑利 二茂雄昭子子子子夫夫之夫功男 夫雄郎夫八</p>	<p>浜松第15団</p> <p>R S B B C 副 團育 S S 第S 隊 委員成 隊隊長 隊長 員會長 長長長長長長長長長長</p> <p>平原馬 山川 袴山 林 野口場 下瀬 田中 良 武 芳俊 倉名 瀨愛 榮將 太郎 彦 郎 一郎 男 次郎 治 司</p>	<p>浜松第16団</p> <p>S B C 團副團育 S S S 委員委員成 隊副隊長副隊長 員會長 長長長長長長長長長長</p> <p>新橋山加石松市石中四黒平山鈴杉新市 井田口藤井山川津島津柳尾本木本谷川 信洋照 義み京 浩宏昭繁修利晴重 一司勝章え史宏二吉夫光作夫夫豐雄</p>

父親の出番

県コミッショナー 内田 嘉一

- 「父親不在の社会、これが現代世相の現実である。あまりにも、我が子に対して無定見にからみつく。母親を中心にした母子関係への偏重強化……が、たくましく健全に育つべき子供達の成長を大きくゆがめて、数々の憂うべき諸現象を生じる原因になっている。といった声を最近よく見聞きをしますが、今こそ、父親がしっかりと自覚すべき時であることを、ひしひしと感ずるのです。
- 例えば、幼児期、児童期における「登校拒否」の非社会的行動。長じての三無主義。或いは、内ゲバによって人を殺しても、全く意に介さないといった、反社会的行動などの、母親による過剰保護と、父親不在の毎日が、どれ程子供達の自主性、社会性の正常な発達を阻害しているかの、代表的な例ではないかと思うのです。
- 東京都の「中学・高校生の家庭生活」という報告書によると、中学生の場合、父親に対する問いでは、「子供と、いつも話す。たまに話す、で69%」ところが、中学生に対する問いでは、男子で56%女子では55%が、「父とは、ほとんど話をしない」という。高校生では、将来の生活について「あまり話し合わない、という答えが男子で53%、女子が47%、もいるといいます。
- また、総理府の調査の中で「お宅では、お子さんの躰を、どなたがなさっていますか」という母親への質問に対して

母親が自分自身で……	69%
夫婦で……	23%
夫が……	4%

 となっています。
- これからはますます、少産、核家族化の激しくなっていく現代の世の中で、幼児期—義務教育—高校—大学—社会人とすべての過程を父親不在の、母親支配100パーセントで成長していくことが日本中の家庭で、常識化してしまったらと思うと全く慄然としたものを感じさせられます。
- 父親は何をもとに生活をたてているのか。毎日、外でどのようなことをしているのかを、父親自身が子供に対して全く話をしないし、子供自身も、我が父親の厳しい労働生活を見ることもなく、知ることもなく単なる、毎月一回の「給料運搬人」としか意識をせず、家庭での疲れた父親の無気力な姿しか印象づけられていないのです。数年前の或る調査でも「父親がいない時」でも、「別に何とも思わない、というのが約半数を占めていたことを思い出します。
- 子供に対する不干渉や、無頓着という、父子の交流の憂うべき実態は、もはやあまりにも普遍化してしまったのではあるまいか。父親、母親が、それぞれのふさわしい役割り、態度、夫婦間の協力話し合い等によって、正しく維持していくということが、如何に大切なことであるか。両者の厳し

い自覚が、今こそ大いに強調されなければならない重要なことだと思えます。

- やはり、「げんこつは、おやじの味」。「にぎりめしは、おふくろの味」というのは、いつの時代に於ても尊重さるべきではないでしょうか。「おやじ、おふくろ、の言葉には何か、ほのぼのとした忘れ難い情感を深く覚えるのです。「おやじ、が、正しい自信と勇気を以て、家庭に子供に対処していくことが、目下の急務、緊急課題であり、子供達が、どんなに強い父親を熱望、期待しているか、ということすべてを大人のしっかりと認識すべきなのです。
- 父親は「船長、であり、「ピッチャー、であり家族というチームの主将なのですから、毎年6月の第3日曜日を「父の日」として祝う風習が我が国でも漸く盛んになりつつあるようですが、この一日だけを、デパートの逞ましい商魂に振り回されるだけで終ることなく、父親のあり方、父親不在の家庭、社会が生み出すもの等について、皆が真剣に考える。有意義な日としなければならないと思います。父親も、母親も、健全な家庭にとってまさに「車の両輪、的な存在であることを、私達は決して忘れてはならないことなのです。
- カブ活動やスカウト教育に、両親の参加が要望されているのも、この意味で深い意味をもっていることを、もう一度お考えをいただきたいと思ます。



懸命の力作……出来上りはいかが……

いまの教育はテスト競争、まず自分で学ぶ子を

- 大学の教授が自ら、大学の教壇から去って、小、中学校の教育にとび込んだという、日本では珍しいことが起きた。
「今の教育はテスト競争、学歴偏重に追われるだけ。どういう人間に育てるか、これが本来の大切なことが欠けている。このままでは、日本の教育は大変なことになってしまう」と言って、児童文学者で慶応大学の教授である渡辺茂男さん(47)は慶大教授を辞して、昭和50年度の新学期から、

- 新しい教育方法で知られる、沼津市の加藤学園の教諭になった。そして、「実際に子供達に接しながら、自分で学んでゆく人間、本当に学習する力を持った子供達を育ててゆくのだ」と言っている。
- 渡辺さんは、慶大文学部図書館情報学科の教授であった。大学では児童図書館や児童文学についての講座をもつほかに、海外児童文学の紹介や、翻訳をしたり、更に子供達に親しまれている「寺町3丁目11番地」や絵本の「しょうぼうじどうしゃ・じぶた」等の作者でもある。
- 子供や青少年については、いわば専門家であり、海外の事情にも詳しいので、かねてから現在の我が国の教育について疑問を抱いていた。
- 「今の日本の教育は、百年前の姿そのままの、一斉、画一的な授業であって、一人一人の個性を無視している。
- 一定レベルの産業人口をつくるには効率的ではあるが、子供の側からみれば無法なことです。しかもテスト、テストによる競争と現在の受験体制が、一層教育をゆがめているのです。
- 世界は今「世界は一つ」、^①「世界家族」という方向に進んでいる時、日本の教育は競争することは教えるが、協調することは教えない。このままでは、日本は世界に取り残されてしまいます。学歴偏重に流されており、創造力も劣えて来ています」。教育への疑問というよりも、むしろ危機感を抱いていた。
- それが4年前、アメリカのミシガン大学に訪問教授として滞在していた時たまたま、新しい教育の研究に来た日本の先生達に会った。それが加藤学園の先生達であった。そして日本の国に帰って来て時々加藤学園を訪れて、一緒になってその教育に参加をした。渡辺さんが考えている教育が、そこにあったからである。
- 加藤学園の新しい教育、オープン・プラン・スクールは去る昭和47年に発足したのである。
- 5才から小学2年生相当までの幼年部。小学3年生から5年生相当までの初等部（カブスカウト年令）。小学6年生から中学3年生相当までの中等部（ボーイスカウト年令）に分かれている。
- 学習は仕切りのない広い教室で、年令の異った子供達が、数人ずつのグループ（班）になって進める。先生はついてはいるが、教えこむのではない子供達が、自分の必要に応じて計画した、自分の学習を進めるのである。
- 自分の発見したことを説明する子、相手の子に教えてやる子。先生は、学習についてのプログラムづくりを手伝ってやったり、助言してやったりして、どこまで、どう進んだかを観察をする。テストの点数評価はない。自分で学習する力を、養う教育である。
- 「大学で教えているのでは遅すぎる。むなしいとも感じるのです。教育が学歴偏重にゆがんでいると思いつつ、学歴社会に奉仕する大学で教えていることについて、耐えられなかったのです。」

大学は、一般的に言えば、学ぶところではなくなくなって、学歴を得るだけの所になってしまった。学生は講義に出て来ない。試験日の近くになるとノートのコピーが飛ぶように売れる。それを買って、それを写して、答案を書く。その答案に評価がついて、成績のよいものから順に就職する。わからなくても、出来なくても、落第しないで、夫々に卒業をしてゆく。そのごまかし合いを見ていて、耐えられなかったのである。「今の教育を「これでよい」と言う人はいないのです。皆「これではいけない」という。それでいて現実には改まらない。一人ずつでもよい。もう実際に行動を起こすべきときだと思います」

- 渡辺さんは、加藤学園のメディア・センターで、主に「司書教諭」の仕事をするのである。メディア・センターとは、学校図書館を拡大充実したようなものである。

加藤学園の教育が、子供一人一人に合せて、自分で学習させる指導法なので、教材が豊富に必要なのである。渡辺さんは、自分自身のこれまでの研究をフルに活用している。そして実際に子供の中に入って、直接に子供達にふれ合ってゆくのである。

- 実は、渡辺さんの長男鉄太君（12）も加藤学園の中等部に籍を置いている。小学校は慶応幼稚舎であったが、中学校に進むにあたって、沼津市内に下宿させて、加藤学園の中等部に通わせている。鉄太君は「好きな勉強が出来ます」と言って喜んでいますが、父親としての目から見ても、大きく変わった。何より自主的に成長したのが非常に嬉しい。と言っておられた。
- 「一般的に、親は有名校への幻想が大き過ぎるのではないのでしょうか。親の気持ちに「建前」と「本音」があるということはよくわかるが、もう今は、「建前」に戻るべき時であります。

どこの高校、どの大学を出るがよいではなくてどのような子に育てるかということを実際に考えるべきときなのです。今、小学生、中学生である子供達が成長する時代になれば、必ずや大学の様相も変わってきていますよ」。

- 渡辺さんは、今後ますます、新しい教育に対して努力を重ねてゆくが、これまで持っていた講座の都合で、慶応大学と東京大学の大学院では、講師として指導にも当たることになっている。渡辺さんは、いたずらっぽく、笑いながら言った。

「小学校の教諭が、慶応大や東大の大学院で、講義をするんですよ。さて、どうなりますか」

- こうした真の教育が、そして真の教育者が全国の各地で立ち上りつつあります。なんと、うれしいことではありませんか。

年頭にあたって

浜松16団育成会長 市川重雄
スカウト振興議員連盟県議

昭和51年の新春を心よりお祝い申し上げます。「日々の善行」を重ねて「新しいふるさとづくり」のために活躍されている諸君は、元気一杯新しい決意で年頭にのぞまれたと思います。

スカウトの量と質との拡大を求めた長期拡大計画は、スカウトが制服のときだけでなく制服を脱いだ時にもスカウト精神をしっかりと発揮できるかどうかにかかっております。

今世の中は世界的な同時不況の為、昨年末フランスのランブイエで開かれた日、米、英、独、伊の6カ国首脳会議で示されたように景気回復を願っての努力が続けられております。

昭和48年末の石油ショックが、戦後物に対する感謝を失いかけた日本人に、物の尊さと物を大切にする気風を生じさせたことは、体験から教えられたとはいえ大きな教訓であります。人間をつくる教育が単なる知識の吸収からではなく、体験からの場合の方が効果がいかに大であることを示されたよい事例であります。そういう意味で、スカウト運動が実践と

体験をもとにして「ちかい」と「やくそく」を守り人づくりをし、それが更に世の中への奉仕となるのであり、その拡大こそそのぞまれるわけであります。

特に戦後30年を送り、新たな年の始めに、こんにちの日本のこの節をしっかりと育てあげてゆかねばなりません。

そこで私はスカウトの諸君に生きがいのある日々の処し方について申し上げます。その第一は、年のめに「今年こそはこういうことをやろう」という計画をたてること。第二は、毎月なにかよいと思う本を一冊求めて出来るだけそれを読むこと。第三は、毎日必ず他人に見せるのではなく、自分の心の中に「やってよかったなあ」ということをどんな小さなことでも実行すること。そして第四に一年間たった時に自分の10大ニュースをつくること。以上の四つを年頭に当り、よいと思う人は同調していただければ幸いです。

では本年のスカウト運動の弥栄と各位の御健闘をお祈りして御挨拶といたします。

浜北キャンポリー雑感

野営行事副委員長 松井英昭

過去何回も、いや団結成以来毎年地区大会、合同野営、班長訓練野営にと一度も欠かした事も無い位に参加だけはさせていただきましたが、それらは参加させていただく事が精一杯で当然職の様に割り当られた名前だけの役員で協力したのか、させたのか専ら地区内での自団の存在を考え自団隊員の事を念頭に於てさえ居れば良かった。じゃなく、それでも通れた。

しかし今度は違う。浜松地区の野営行事をブロックが代行すると言う形で私達が計画し責任者の中の一人である事を考えて実行し、其の成果を地区へ報告しなければならないのだ。私には荷が重すぎる様に思える。が大世帯の地区を切り盛りして居る諸先輩達や常日頃のリーダー諸兄等の犠牲や努力を思えばそんな事も言っては居られません。

浜北ブロック合同野営・先ず場所が問題だ。私はかねてから心秘かに描いて居た事だが私共旧赤佐村に於呂、根堅、尾野(字名)の三つの森林組合がある。其の三つの森林組合所有のいわゆる内の内でキャンプを、そしてハイキングをやり乍ら其の山林の由来、共有林としての区有林と村有林、そして現在の生産森林組合になる迄の歴史、又私達御先祖様達が如何に此の山を愛し、如何に御苦勞をなされたかを隊員達に伝え聞かせて先祖に山林に愛着と感謝の心を持たせ、それらが奉仕の形で下刈が、又勤勞のよこびが出来たらと。

その私共森林組合所有の山林はあのゴルフ場をも



～ 浜北キャンポリーから ～

含めて天竜市へまたがる160丁歩を超す広大な山林、その広大な山林の中に幾ヶ所かキャンプ適地がある。とに角野營地を下調べしなければと思ひ8月3日の午後2時頃から浜北1団の坂東隊長と私共2団の育成会副会長で森林組合の理事でもある市議会議員の藤森孝男氏と私の三人で出掛けた。勝手知った林道だ。曲りくねった道とは言え20分ばかり走ったら、もう第一候補地に到着、天竜川に幾つかある橋は勿論の事、遠く浜松市街、太平洋迄が一眸だ。申し分無い、すばらしいの連発で一服す。ふと見ると未だ大分早いと云うのに足もとに桔梗が愛らしく一輪二輪、季節には関係ないとも言いたげにホーホケキョの声が直ぐ下の小さな谷で聞こえる。とは言えそんなに奥地に來たのではない。観音山が遠く高く北西方向に見える位置だ。勿論地名は天竜市下阿多古。ブロック単位の野営には恰好な位置であり風景であり、まずは合格!!

其処に別れを惜む様にして第二候補地へと三人は車へ乗る。第二、第三候補地と言っても第一に劣ると云う訳でなく道順から付けた呼名だ。下刈を忘れられたのか手が廻らないのか其処此処に小指位のそして2位に細長く伸びた名も知らぬ雑木の群生林がある。背のびして文字通り首を長くして我々を待つて居る様に。

松、杉、桧以外は自由に切ったり処分したりして良いと藤森氏の説明。

子供達は之で簀子を、食器棚を作るだろうなあ!! 立ちかまどの材料にするかもなあ!! いやいやもつと奇抜なアイデアがとび出すかも!! なあんで色々勝手な空想をしながら第三候補地へ。此処はのどから手が出そうな奇岩が!! そして其のまま庭木になる様な杜松柊、犬黄楊錦木迄ある。とに角大人にも子供にも教材には事欠かない話をしながら帰宅す。しかしいかに惚こんだ山とは言え他人の土地、共有林と言ってもBSのリーダー役員では私だけが何百分かの一の有権者、少くとも森林組合の役員代表者には了解を得なければならぬ。決してスカウトに対し認識不足と言うのでは無いが何と云っても火災を心配する。それに此処の山はやせ山故に比較的植林が少なく実生、すなわち自然林が多い。したがって樹木の下には枯葉枯草だけでなく可燃植物が盆栽の様な小さな木々が一杯だ。(小さくても樹令は かなりたつて居ると思われる) そればかりでは無い。渋川や芝形と異り水量が非常に少ない。(キャンプには不足ないが) 故に森林組合側も許可するに慎重であろう事は充分予想される。

勿論旧赤佐村の浜北2団だけならば、なんてケチな考えは毛頭ないはずだが!!

山を借る交渉には私一人で行った。藤森氏の根拠しも口添えもあって、くれぐれも火の用心を注意されたのみで許可を得た。元より借用料(入山料)を払う意志は全くないので其の話は全々しない。又払うと言っても受取らないであろう。専ら火災の心配のみ、山は先ずOKだ!! だが地区副委員長の杉山さんもブロック担当コミの外山さんも現地を知らないばかりか私達が調べに行く事も知らさなんだ。其の後坂東隊長から聞いて前記両者と奥野隊長等は半信半疑だったのか責任者としての自覚からか、あの忘れもしない8月17日台風の影響でひどかった雨の中を現地へ行った。しかし道案内が居ないので近く迄は行ったらしいが候補地を確認せずして帰った。(実際は私に連絡を人伝えにしてあったらしい) 其の確認出来なかった事を杉山さんから仕事現場で電話を受けた私は急ぎ仕事を打ち切り杉山さん宅迄駆けつけた。次の日曜では遅すぎると云う結論に落ち着いたので再度雨に挑戦して行く事にした。時計は午後5時半過ぎていた。雷をともなった豪雨は容赦なく外山さんの車の屋根をたたく。途中ワイパーも用をなさない程のスコールに二度三度出合う。其の雨にうなだれている杉や桧の枝に或いは土手から垂れ下がったス、キヤ萩に車の行く先をはばまれての道行き。

スカウトと雨は付きもの半ばふてくされて居た三人が現地を見てびっくり、坂東隊長がほめるのも無理は無い。ヨシ!! 此処にきめたとばかりに一路帰途に。雨は少し小ぶりになったが夏とは言え雨の午後7時は真暗だった。其の後、又各団三名位のリ

ーダー、役員で下見聞を重ね8月28、29、30日の二泊三日のキャンプをやった。快晴々々、めずらしく快晴だ。決して普段の行ないが、なんて月並な事は言わないが、不なれな私達に天が最高のプレゼントをしてくれた事は事実。

キャンポリーの内容やプログラムはベテランの三室さん、熱心な外山さん、努力の波多さん、アイデアの大須賀さん、真面目な阿部さん、平松さん等の協力で大成功だった事は記すまでもないので省きまますが、陰の演出家坂東さん、奥野さん始め各団CSのリーダーに至る迄多くの裏方さんぶりも見落してはならない事実でした。

現地への集合は自転車の者、荷物と一諸にトラックで来た者等、各団自由。

少し余談になるが私達が小学校の頃は年に2~3回位(小学3年生以上)此の山へ日の丸弁当で遠足に行き枯枝など各自一背負つて学校に持ち帰り、そ



浜北キャンポリーから

れを私達小学校で使うたきぎにしたものです。誰が名付けたのか之を金次郎遠足と言ったものです。(二の宮金次郎の姿に似て居るから)

近年は学校行事、或いは他の少年団体行事等とスカウト行事が重なったり、又類似行事が多くとり入れられたりで野営計画がたてにくくなり、団によっては此のキャンポリーが本年度初めてのキャンプ、したがって6年生のスカウトは生れて始めての子供も居る訳。

私達は各団父兄に呼びかけました。森林公園や芝形のキャンプ場と異り、決められた便所、炊事場、水道がある訳で無く、本当の意味での自然林ですが(本当は之を望んでいる)遠い所ではないので子供達への激励に是非おいで下さいと。

決して差入物を望んだ訳ではなかったが、各団父兄、リーダーからの差入物で本部テントはゴツタ返した。山と積まれた飲食物でコンダテ表以外のコンダテに奉仕員もテンテコ舞い。西瓜の如きは本部で用意した以外に68箇、いや86箇だったかな。トマトもナシも70数箇、水汲場の沢には西瓜々々……ナシもトマトもだった。

とに角、腹も身の内、気を付けなくちゃ!! だがまだまだ弱体な浜北ブロック。「入る物こぼまず、出るもの追う」の精神は持ち続けねば、まあ何はともあれ此のキャンポリーを成功させ一般市民にも森林組合関係者にもBSならばの気持を定着させて毎年此の山でキャンプが出来る様にしたい。

そして是が非でも成功させなければならぬ理由は此の浜松地区がブロック制を敷いて一年、此のブロック制度を大事に、そして立派に育て上げ浜北独立云々なんて言葉は当分の間お預けにしたいと願うからです。

ノルド・ジャンボリー'75

(第14回 世界ジャンボリー報告)

文 (浜松第10団) 後藤 守利

写真 (浜松第7団) 高倉 清雄

私達 141 名の第14回世界ジャンボリー日本派遣団が、東京のオリンピック記念青少年センターに集合し、荷物の梱包、計量など最後の点検と打合せを完了したのは、7月26日の深夜でした。一夜明けて東宮御所を訪問し、皇太子殿下より派遣団国旗の拝領、壮行パーティなど、あわただしい一日を過ごし、JAL1407便(貸切DC8)で羽田を飛び立ったのは、7月27日22:00でした。空港の国際線出発ロビーは、夏休みを海外で過ごす多数の人々や、見送りの人々で混雑しており、壮行会もできないような状態で、重い荷物をフラフラしながら運ぶなど、期待と疲労感の入りまじった複雑な気持ちだったことを記憶しています。

太陽に向かって飛行するため、暗い時間は3時間のみで、眠られぬま、アンカレッジに到着し、約1時間の給油後、白夜の北極上空を飛び、28日5:42、まるで



北欧のガールスカウト

く、このような合同の奉仕や行事、野営は、日常活動の中で、多く取り入れられていることが後で判明しました。

会場は、ミヨサ湖に接する2つの川にはさまれた平坦な牧草地で、入口近くは数十戸の集落に接するなど、特別の手をかけないで自然を生かした工夫がなされ中央広場のステージは古い牧舎の前面を利用したり、ゴムの水道管を地上に露出した配管など、ジャンボリー後のことを考えた施設が多く見られました。期間中は20年ぶりの暑さとかで30度を超す日中の気温が続きましたが、夜10時頃の日没後は相当冷え込み、ジャンパーと長ズボンが必要でした。この地方は平年ですと半分は雨が降る時期にもかかわらず、250年ぶりの異常気象で一日も雨が降らず日本の夏に近い気候の中で楽しい野営生活ができたことを感謝しております。

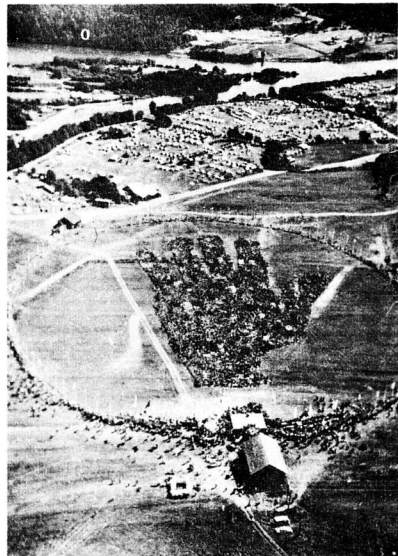
今回のジャンボリーは、起床8時から消灯23時半までを午前(10時から)・午後(15時から)・夜間(20時から)と、白夜期の長い日に合わせ、ゆったりとした日課で各サブキャンプ(北欧5ヶ国の著名な地名がつけられた10の野営区)が、それぞれのホスト国の特色ある設営や運営により、プログラム活動の中心となって実施されました。各サブキャンプの運営の原動力となって参画したのが、各ホスト国のシニアスカウトであります。特に印象深かったのは、彼等は自分の責務を全



開会式

うした後の自由時間は、自己の時間として各国のスカウトや女子スカウトとの交歓や、営火及びプログラムへの参加など積極的にジャンボリーに参加する姿勢がみられ、運営の土台骨という立場と、自分も参加者としてエンジョイするという立場の、良い意味での使い分けの上手なことに感心させられました。

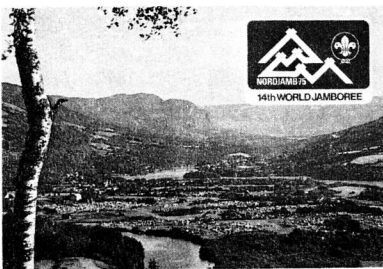
ジャンボリーのプログラムは、見せることや見ることより、行うことを主眼に立案され、大きく三つに分れていました。すなわちジャンボリー前後の民泊及び全体で行う開・閉会式、それに今回のメインプログラムともいえる国際班によるハイキングを含め9つの個人プログラム活動で、電子計算機を導入し、参加者の背



ファイブフィンガー・ワンハンド
開会式を上空から、5本の指と1本の手

番号ともいうべきコード番号により、コントロールと事務処理がなされ、毎日の隊長会議において細区分による割当がされるなど、過去のジャンボリーとは異なって、個人の活動を重視するサブキャンプ中心のユニークな運営がなされました。

開会式は、7月30日午前、照りつく太陽のもと、国旗掲揚柱によって円形に囲まれた中央広場で、服装はもとより肌の色や言葉の異なる94カ国約15,300名のスカウト達が集って今回のテーマ「五本の指と一本の手」にちなみ、全員で描いた左手の人工字や、形式ばらない自然のままの式次第、バイキングの戦士の服装をしたノルウェースカウトの角笛のファン



ノルドジャンボ75 絵ハガキより

森と湖の中に埋没しそうに見える。ガルデモーエン空港(オスロ近郊)に着陸しノルウェーに第一歩を踏みました。空港には、山中ノルウェー大使(日本連盟役員)が、わざわざ出迎えられ、激励と期待のことばを受けて、いよいよ長年の夢が今ここに現実になったのだなと、感慨をおぼえるとともに、身の引締る思いがしました。

予想外に強い直射日光の中を、深い森や、村の白い民家、湖(川)など、絵のように美しい自然に囲まれた道路をバスで2時間半程走って、リリハマー市郊外のジャンボリー会場入口に到着して驚いたことは、奉仕スカウトの中に、女子のスカウトを見たときです。それも男子と対等に肉体労働にも奉仕している姿に接しその多様な判断基準とスカウト達の責任感を考えさせられました。

スカンジナビア地域では、BSとGS(ガールガイド)が同じ連盟のところが多

ファーレなど、日本の大会の式典とは違った雰囲気味わうことができました。この開会式が終ると同時に、各サブキャンプごとのネックチーフに替え、他のサブキャンプの外国スカウトと5人の仲間を作り、昼食会を催すなど、交歓の方法にもアイデアが盛り込まれており、閉会式では、この仲間達が再会のうへ、三々五々と自然に集り、思い思いの場所に陣どって語りあい、そして別れを惜しむローソクを灯して友情を確かめあうなど、スカウトを主賓とする姿勢は各所に見られ秒きざみで立案される日本のそれと比較



ノルウェーの家族達と

したとき、盛り上りが少ないという欠点があるにしても、真の国際親善、交歓というスカウトの心と行動によって裏づけされることがらのあり方について、その気張らない自然な取り入れ方はサスガと痛感させられました。また、閉会式には各国対抗の「縛材」を利用したゲームもみられ、一層印象の深いものとなりました。個人のプログラム活動は、(1)運動(オリエンテーリング・バレーボール・3種競技など)、(2)水の活動(帆走・カヌーボート・水難救助など)、(3)北の路(開拓縛材による渡河や塔作りなど)、(4)自然保護(野生生物の観察・保護の方法など)、(5)手工(角や皮細工・ロープ作り・ナイフの柄作りなど)、(6)マイハーゲン(ノルウェーの歴史的な建築物のある自然公園の見学)、(7)文化と民主主義(写真と文字による展示)、(8)現代技術とラジオスカウティング(天文・自動車・データ処理・ラジオ組立・アマチュア無線など)と、(9)国際班による一泊ハイキングで、班は

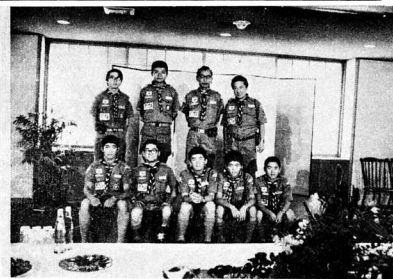
言葉や風習、肌の色の異なる8カ国のスカウトにより編成され、北欧のスカウトが班長となり、難易度により4コースに区分されたそれぞれのルートに挑戦し、動植物観察や岩石採取、見学などの課題と取りくみながら、草原や湿地帯の半日歩いても人に会わないような自然の中で行われ、不自由な外国語を介して話しあい、食事を準備し、全員で一枚のビニールシートにくるまって露營するなど、日本ではとうてい望めない体験をしたスカウト達の印象は、一生忘れられない事柄と思います。そのほか、新しい趣向として「お国祭り」(カントリーフェア)、各サブキャンプごとに行われ、それぞれの国の得意とするものが出されました。丁度、日本の夜店のようなもので、その際しか使えない特別の紙幣(ノルドクラウン)を発行し、呼びこみや趣向を競い夜の11時半まで楽しみました。私達の派遣団第2隊は「流しソーメン・ヨーヨー・シルクプリント」を準備し、当日は大人気で予定の2時間半を1時間半も残して閉店せざるを得なくなった程でした。特に提灯・竹・はしなど、日常西洋では見ることのできない物への興味は高く、



カントリーフェアにて
流しソーメンの(日本)

飾り付けに用意した提灯は、プレゼントを始めて5分間でなくなるという状態でした。

快晴にめぐまれた今回のジャンボリーは毎日のようにヨーロッパ各地から見学者が訪れましたが、特に印象に残っているのは、短い夏の太陽を吸収するため開放的な服装をしたノルウェーの子供達でプレゼントした折り、鶴や姉様人形を両



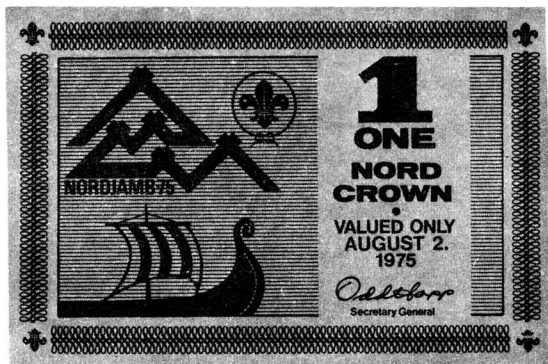
壮行パーティ会場にて県出身者

親に見せて、満身をもって喜びを表すとともに、女の子は女王にするような握手を求めてきたり「TAKK (ありがとう)」と必ずお礼を忘れない態度でした。日本では忘れかけているような家庭での「しつけ」の厳しさを、地球の裏側で見せられた思いがいたしました。そしてノルウェーをはじめ北欧のスカウトの純真さや誠実な態度の基盤は、このような家庭教育と宗教にあることに気付いた次第です。

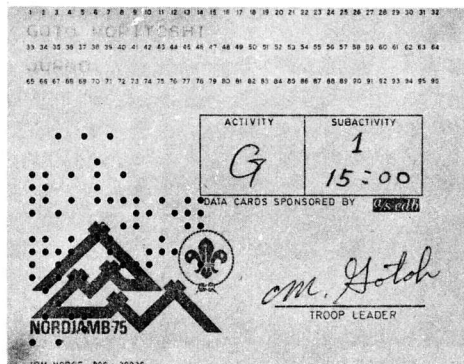
新春雑感 浜松地区副委員長

杉山友男

新春おめでとうございます。
最近つくづく考えさせられることは、永つづきするためのスカウト活動は、やはり特定の人のみ荷重がかかりすぎないよう、より多い人が均等に、そして負担を分け合うような、組織とその運営上の配慮が必要であることを痛感する。
こうしたことは理屈で分っていても、計画と準備が立ちおくれと仲々うまく行かないものである。
最近の事例としてよい例は組織拡張委員会のスカウト浜松の編輯である。50年度は山中委員長のよい指導と運営のもとに各ブロックが交代で編輯することになったが、心配していたことはすべて杞憂だった。又いろいろの味が出て、そして大ぜいの委員が全員で参加して作りあげた喜びを感じとることも出来てほんとうによい事だったと思う。
従来はどうしても数人に限られた人たちだけの仕事であったために、個人への負担が偏重しマンネリ化のそりは免れなかったと思う。こうした事例からいろいろの運営に当り、いかにして全員を参加させるか、又そのためのシステムの組み方が今後の課題であろう。
新春を迎えて一つ感じました。



カントリーフェアの紙幣
ノルドクラウン



個人のプログラム活動参加用カード

昭和50年度ボーイスカウト、ガールスカウト 静岡県大会西部会場 中田島海岸に集い盛大に挙行



会場入口

昭和50年9月28日、浜松市中田島海岸に於て、昭和50年度ボーイスカウト・ガールスカウト静岡県大会（西部会場）が盛大に挙行された。

この朝、浜松地方は、くもりとはいえ静かな日中でスカウトたちにとっては、日本三大砂丘を舞台に思い切り飛び廻り楽しい一日を過ごすことができる条件でした。

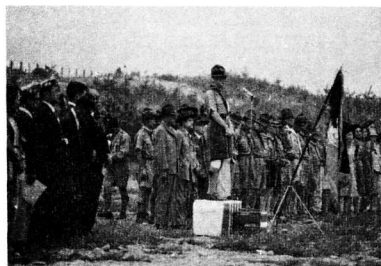
会場は、前日から野営行事委員の方々が中心となって設営もすっかりと出来上っていた。ボーイスカウト浜松をはじめ浜名、磐田、北遠、掛川の各地区。ガールスカウトの各団。スカウトリーダー、来賓、役員、父兄、一般等約3,200名が参加して、定刻の10時をややおくれ、2発の花火を合図に、式次第により第1部が開始された。

まず、市川重雄B S浜松地区副委員長が開会を宣言して、一日がスタートした。浜松21団のB Sによって、国旗掲揚。国歌斉唱のあと、物故者への黙祷。つづいて、B S県連尾崎副連盟長、G S荒木県支部長のあいさつ。

浜松ライオンズクラブの20周年記念で宮沢広士会長より、天幕の贈呈式。B S浜松地区へ。天幕三張の目録。G Sへ。天幕一張の目録。この天幕で明日からのスカウティングが更に大きな輪となり、広がるものと思われま。

◎地区表彰

多年にわたり、私たちに物心両面にわ



尾崎副連盟長あいさつ

たってご協力くださった団体および会社に地区委員長より感謝状の贈呈。個人で多年にわたってスカウトを指導したリーダー、団発展に尽くした団委員等に地区委員長より表彰状が贈された。

❖感謝状

- 浜松ライオンズクラブ
- 浜松市ロータリークラブ
- 浜松東ロータリークラブ
- 浜松南ロータリークラブ
- (株)朝日堂印刷所

❖表彰状

- 浜松第7団団委員 坪井愛三
- 浜松第16団副団委員長 杉本晴夫
- 浜松第19団団委員長 鈴木 護
- 浜北第3団団委員長 山下総太郎
- 浜松第10団B S隊副長 山下三郎
- 浜松第12団B S隊副長 鈴木孝志



整 列

- 三ヶ日第1団B S隊長 名倉 保
- 可美第1団B S隊長 太田 進

来賓の市長代理・浜松市文化振興部長殿の祝辞が夫々述べられ、つづいて、来賓を司会者のご紹介されました。次に祝電多数を披露し、スカウト宣言を浜松第22団の斉藤君が力強く行なって第1部（開会式）を終えた。

第 2 部

開会式の会場で、日頃、指導者のもとで訓練した、鼓笛隊が見事に披露され、盛んな拍手をうけていた。参加した団は次の通りです。

- * 浜松第16団カブ隊 26名。
- * 浜松第12団カブ隊 27名。
- * 磐田第3団カブ隊 31名。

カブスカウト、ガールスカウトたちは団ごとにリーダーの指導で、参加した父兄と仲よく、楽しい風揚げ大会をくりひろげました。私たちは、リーダーと会場を見てまわったが、中でも次のスカウトたちが風の出来もよく、更に風にうまくのってあの中田島砂丘の空をおよいでい



焼けたかな？（クッキー作り）

ました。

浜松第1団森下嘉一君。浜松第4団中谷裕司君。浜松第15団大見文則君。平野剛君（共同作品）。浜北第2団森住智史君。県6団ブラウニー浜松市、石黒陽子さん。

ボーイスカウトのワイドゲーム（文字合せ）これはスカウトにとって、すばらしい思い出をつくるゲームである。

BS西部大会 この6枚のカードを早く組み合わせるゲームです。

トップの勝利を収めたのは、浜松第1団〇〇君。森第1団〇〇君。浜松第11団〇〇君。浜松第1団〇〇君。浜松第20団〇〇君。掛川第2団〇〇君。ですが写真を見てスカウトをあててください。

ゲームコーナーでの参加者の声。

▽蟻地獄（北遠）

キャンプ以上に楽しくゆかいに一日を過ごすことができました。リーダーの人達、考えたなあー。

▽宇宙飛行テスト（磐田）

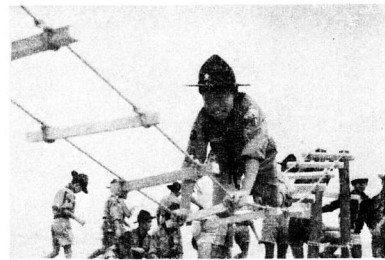
ぼくは、さっき来たが、多勢並んでいたので、外に行って再びくるとまた一ばいい、一度もできなかった。隊集会でやりたい。

▽ピッケのボーリング（浜松）

とても面白かった。学校でも先生が作ってくれればいいが……。

▽ぼっくりゲーム（掛川）

ぼくらの隊長が作ったものだから、これだけはやってみなくちゃアー。



レインジャー

▽那須の与一 (浜松)

ワイドゲーム (文字合せ) で、文字が合わず随分時間をかけてしまった。だからこのゲームは、ゆっくりたのしんでいくよ……。

▽爆弾三勇士 (浜松)

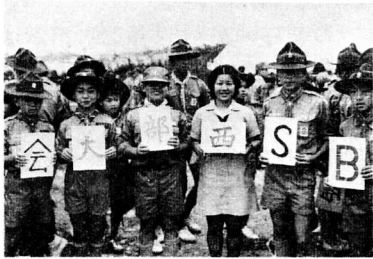
めったにできないゲームで、満足しました。でも雨が降って来て残念ですね。

▽竜と虎 (湖西)

ここで体験して、自分の隊でやってみたいと思っています。

▽クッキー作り (浜松)

どうも簡単に焼けるようだし、見ているだけではと、ぼくらも並んで説明を聞いて、これ出来上り品ですよ、どうぞ……。うん、とてもおいしい。



ワイドゲーム

▽ロープウェイ (浜北)

ぼくは今年のはじめて参加したが、このゲームはスリルがあって、もっとやりたかった。

▽海坊主の綱引き (北遠)

元気にできていいが、力があるね、それで、指をすりむいて痛い……。

▽釣り大会

ぼくも、魚釣りが好きだから、お母さんに買ってもらおうと……。等々の体験している現場で拾ったスカウトたちの生の声でした。

▽ガールスカウトによるフォークダンス

小雨降る中で、ガールスカウト、ブラウニーの可愛いお嬢さん達によるフォークダンス (荒野のならず者) が始まると



浜松第12団カブ隊

父兄やボーイ、カブも参加して、みるみるうちに大きな輪となり、楽しい一幕を飾ることが出来ました。しかし、雨が次第に強くなり、役員 (各地区コミ会議) で協議の結果、一時間程、早めて閉会式となる。

閉会式

スカウトたちは、雨となったので、空を見あげながら、そして、名残り惜しそスカウトたちは、雨となったので、空を見あげながら、そして、名残り惜しそに楽しいゲームコーナーを後にして、引き上げて、閉会式の会場に整列。(午後2時17分)

本日参加した隊に、参加縛の援与。吉沢純道浜松地区協議会長より、閉会のごあいさつを受けました。つづいて竹村実行委員長より講評があって、国旗が降納され、弥栄三唱の音頭を内田県コミが行なって大会が無事終えたことと、明日からまた、がんばろうと誓い合った。最後に、参加者全員で元気に大きな声で「別れの歌」を歌って散会した。参加者も多く、盛況裡に終えることができたのは開催地浜松をはじめ、関係者の暖かいご協力が大でありました。

浜松地区大会おみやげ

浜北第3団 伊藤 新治

ぼくは、浜松地区大会で、二つのおみやげを持ち帰った。それは、ぼくにとっては、すばらしいものだった。

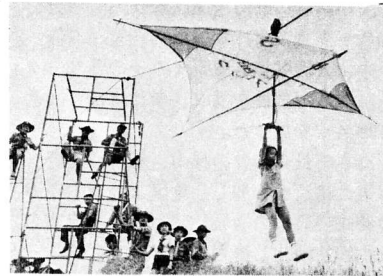
9月28日、中田島砂丘で行われ、他の団のスカウトと知り合った。ぼくの班は各コーナーでも失敗が多かったが、協力があったと思う。コーナーを回ってるうちに昼食となり別れたが、後でプレゼントをくださると同じ班の女の人が言った後でわかったがこの人は、とてもえらい人だったようだ。

昼食を終えると海岸へ行った。波も荒く、雨も降っていたが、気持よかった。遊んでいるうちにみんなひきあげていくぼくもあわててもどるともう閉会式が始まっていた。あまり気持よくて、時間の事をすっかり忘れていた。

閉会式も済みさあ帰ろうとした。その時思い出した。あの女の人が本部席へおいでとおっしゃったので、あわてて行くといないようだ。がっかりしてもどりかけると、おりました。やっと例のプレゼントをいただいた。それは、ビー玉を糸で巻いた首かざりだった。約束は守るものだとつくづく思った。

もう一つのおみやげは、拾った貝がらのことだ。きれいな巻貝でぼくの拾った貝では最高のものだった。リングにしようかとも思ったが、今のところ大切にしまっている。いつも行きたいから？

人から見ればなんともない、首かざりと貝がらだが、ぼくにとってはすばらしいおみやげなのだ。

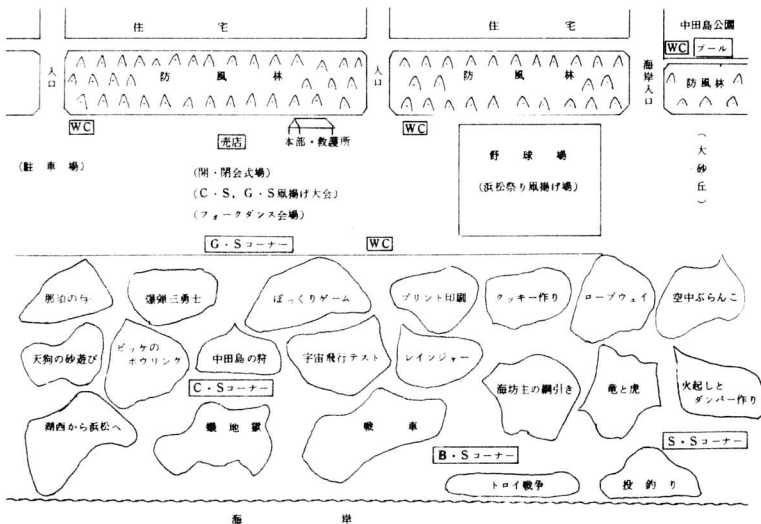


静岡県西部会区大会

浜北第4団 中道 積治

9月28日、朝おきてすぐ身じたくをして東美園のお宮へいった。きょうは、西部地区大会だからだ。そこからバスへ乗って中田島へいった。開会式がおわってゲームをやって班を決めた。その班でまづ、クッキー作りのところへ行行ってクッキーを作った。いがいとおいしかった。

次は浜北ブロックでやっているロープウェイにいった。たくさんの班の人がいたけどまつことにした。なぜならぼくたちの班は4団の人が6人中3人もいたからだ。長い間まって、ついにぼくの番がきた。とてもどきどきしていた。やったとてもすずしくきもちがよかった。そのあと食事をした。こんどはほかを見に行った。ぼくだん三勇士や、なすのよいや戦車などいろいろやった。閉会式がおわって記念に、ネッカーリングをもらって家へ帰ったが楽しい一日であった。



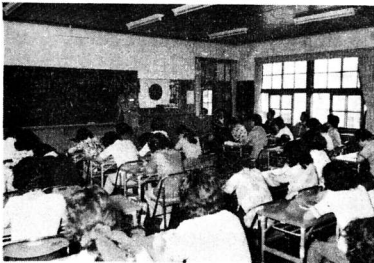
※※※※※※※※ 浜北ブロック活動記録 ※※※※※※※※

本年に入り、浜松地区委員会の各ブロック活動も本格的となり、その活躍ぶりも眼をみはるものがありますが、我々浜北ブロックもこれに負けじと団委員、リーダーのチームワークよく活動しております。

本号ではその主なものをまとめて報告したいと思います。

「デンチーフ集会」

5月25日、浜北市小松八幡神社境内に於て浜北ブロックのデンチーフ養成のた



デンマザー講習会

めの集合を行なった。

主任講師に外山吉保、隊長・大城智、副長・小倉茂嘉、本部員に三室、布施、野中、大橋弘子、藤原すみ子の各リーダーに依る本部員を構成、参加者は各団より28名が参加した。

尚本部員の奉仕の杉山、松井、奥野、坂東の諸氏も参加し、地区より齊本指導者養成委員長の激励訪問もあり、充実した内容を消化し得たものと思う。

「デンマザー研修会」

6月15日(日)浜北市立社会教育センターに於て「浜北ブロック・デンマザー研修会」を実施した。

本部奉仕員には杉山地区養成委員長、松井浜北2団々委員長、育成会より浜北第1団・手塚副会長、庶務に浜北1の坂東、奥野両隊長が奉仕した。

主任講師には外山吉保副コミを始めとし隊長・野中不二夫、副長・布施隆三、本部員に藤原すみ子、川合守、川合敏治の各リーダーが教育を担当した。尚、地区より三輪コミも特別参加。受講参加者は浜北1-32名、浜北2-8名、浜北3-4名、浜北4-5名で合計49名に及びスカウトをもつお母さん方の熱意のあらわれは大盛況のうちに終了することが出来た。ただ惜しかったのは農繁期のため農業に係のある団からの欠席があったことである。

今後はある程度、時期を考慮しなくてはならないと思う。

ベテラン講師によってスカウト活動のあらまし、集会のあり方、遊戯や実習など楽しく研修が行われ、有意義な一日であった。

「浜北ブロック各団連絡会」

7月3日、浜北市社会教育センターに於て、各団より団委員代表及びリーダー集合し、浜北市への報告事項、浜北まつり参加の可否等の打合せを行なった。

「浜北ブロック・リーダー懇親会」

7月6日、富士見園に於て各団リーダーの横の連絡及び懇親のための会合もつた。

「浜北ブロック・合同キャンポリー」

8月17日、折りから降雨をついて、キャンプ候補地を探すために各団より代表者数名で天竜市青谷方面に出向いたが、決定には至らなかった。

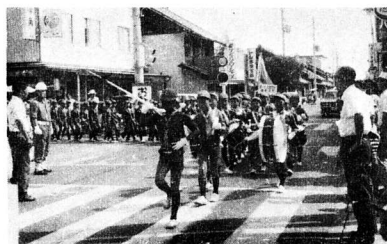
8月24日、再度調査の結果、同地区の赤佐地区財産区有林内に決定、各団の分担等を申し合せして急拠、準備に入った。

8月28日より8月30日まで2泊3日、野営長には松井英昭地区野営行事副委員長が、隊長は第一隊に外山吉保副コミ第2隊は三室渡副長が夫々担当することとなり、各団のリーダーが副長として補佐して実行された。

参加者は浜北1団25名、2団8名3団12名、4団16名の申込みであったが若干の不参加者はあったもの、大多数が元気で参加、天候にも恵まれ、そして父兄の訪問も多く大成功で終了する事が出来た

「浜北まつりのパレードに参加」

第2回を迎えた浜北まつりは本年から



浜北まつり パレードに参加

浜北市観光協会が主催となり、浜北市商工会、浜北市自治連合会が後援、その他各団体が協賛として、8月29日より31日まで巾広いまつりが計画された。

ミス浜北コンテスト、納涼おどり、大パレード等を実施するというので、ボーイスカウト、ガールスカウトもパレードに協力参加した。

8月31日、パレードの実施は宮口地区赤佐地区、中瀬地区を午前中、午後は小



浜北カブラリー

林地区、北浜地区、小松地区の順序で分割形式で行われた。

午前中は浜北第2団と第3団、午後は第1団と第4団が担当した。

ミス浜北発表パレードという主旨もあってミス浜北の乗るオープンカーの先導に浜名高校のプラスバンド、ガールスカウトのバトン行進、浜北第1団カブ隊の鼓隊、商工会青年部の清水次郎長一家の仮装行列とつづき、華やかなパレードとなり市民の眼をみはらせるものがあつた。前日までキャンプをしていた関係もあり各団共BS隊員の参加は少なかったが、カブ隊員は殆んど全員参加で賑やかに隊列に組み、ボーイスカウトのPRにも役立ったものと思う。

なかでも浜北1団カブ隊の鼓隊は未だ新編成直後で練習量も少なかったが、残暑きびしい中を懸命な演奏で観衆の拍手を浴びた。

「その他」

○9月6日各団団委員及びリーダーで浜北ブロック合同キャンポリーの反省会を岩水園で開催し、反省と将来のあり方等懇談した。

○9月28日、中田島に於ける県大会には浜北ブロックの担当として、「ロープウェイ」の製作を奉仕した。

○11月9日、前浜北市教育長で去る3月逝去された故相畑見竜氏の葬儀に際し各団の団委員及びリーダーに依って奉仕を行った。同氏は深くボーイスカウト活動を理解され、市の行政に反映させてくれた恩人である。

○11月12日、ブロックリーダー会議、浜北ブロックカブラリーの打合せを外山副コミ宅で実施。

○11月16日、浜北ブロックのカブラリーを県立森林公園で10時より2時半まで各団カブ隊員約100名、父兄リーダーも100名集い、地区大会で十分やることの出来なかつた凧揚競技その他、各隊だし物のゲームや遊び等で秋の一日を楽しく過した。(杉山友男記)

浜北引佐 ブロック・リーダー紹介

浜北第1団

坂東毅 浜北のボースカウトを語るのにこの人をさしおいて——というわけにいかない。浜北第1団創立の貢献者であり、初代BS隊長でもある。現在はSS隊長をつとめてくれ、行事関係の奉仕については、人後におちない位の活躍ぶりである。

藁家の屋根裏のす、竹を材料にした手工芸品は余技を超越して玄人はだし、その作品のネッカリング、壁かけ等は最近スカウト関係者の多くの人達に喜ばれている。

旧制浜松商業出身、永らく青年団活動に活躍した。目下自動車整備業を経営。52才。

奥野嘉一 坂東氏いる所奥野嘉一氏あり、実に仲のよいコンビである。坂東氏と共に浜北第1団創立の立役者である。今はRS隊長として籍をおき、団活動における奉仕ぶりは坂東氏と双壁。

物事は筋を通すと云った理論派的なところあり、ガールスカウト静岡22団の創立当初、蔭の立場でよく協力した。

宴会となれども酒は少しも呑めず、但し家業は酒醬油みそ等の販売店の若旦那旧制浜松商業卒。一時教員の経験もあり45才。

外山吉保 昭和41年団委員長長のピンチヒッターで講習を受けたのがスカウト活動に入るきっかけとなり、浜北第1団BS隊長として実績を挙げ、地区リーダーとして数々の講習の経験を重ねてゆく



後列左より外山、奥野、井口、前列小倉、布施、坂東、山下)の諸氏

ちに識見技倆共卓越し、今は地区副コミッショナー、又浜北ブロックのリーダー責任者としてその存在は余りにも大きい

現在北浜小学校の教職にありながら、スカウト活動を通じて社会教育に奉仕している模範的なリーダーといっても過言ではない。

音楽、歌唱力は最も得意とするところ従ってスカウトもリーダー諸氏もこの恩恵に浴する訳である。

家業は茶販売店、静大教育学部卒で小学校教員。40才。結婚後暫く子宝には恵まれなかったが、今は一男一女に恵まれよきパパでもある。

布施隆三 年少隊長、昭和45年6月14日年少隊リーダー講習を受け、浜北第1団に年少隊誕生以来の隊長をつとめ、手塩にかけて教育した隊員も既に年少隊の班長をつとめるようになった。

日本アライアンス聖書神学校を卒業後現在日本アライアンス教団浜北キリスト

教会の牧師として活躍しながら、スカウト活動に奉仕してくれており、日曜は布教にそして終ればスカウトの隊集会といった具合に頭の下がる思いがする。

温厚にして誠実、几帳面。さすが牧師さん隊長だけあって、スカウトによく親しまれる。美人の奥さんの間には子宝に恵まれないが、その分だけ他の子供を可愛がってくれる。京都市出身、38才。

小倉茂嘉 年少隊副長、昭和45年に講習を受け、副長として布施隊長を補佐して今日に至る。教育について布施隊長が担当することに対して、行事等の場合の面倒は主として小倉副長の分担となるがいつも心よく奉仕してくれる。

息子さんが隊員だった関係で団委員になっていたものが後にリーダーに転じた奥さんはフジ美容院を経営、最近店舗も改築、商売繁昌、ご当人はヤマハ発動機に勤務。50才。

山下正義 少年隊副長、青少年育成活動もしつ副長をつとめているが、目下母校浜名高校サッカークラブに夢中。しばらく御免下さいといったところ。

将来の活躍を期待される。浜名高校出身。織布業自営、28才。

平野正昭 少年隊隊長、浜北第1団誕生以来数年間少年隊、年長隊の隊長をつづけ大いに活躍してきた。青少年活動推進員もつとめたりして、スカウト活動も情熱をもっているがこのところ仕事の都合でま、ならないのが現状。今にがんばります。31才。

井口清嗣 少年隊副長、飼料商を自営
坂東江美 少年隊副長補、御存知坂東隊長の御嬢さん。

浜北第2団

松本氏



大須賀氏

舎営、Bのキャンプと続く場合がある。そんな時でもBSのリーダーの都合で急遽代りを務めることもしばしば。

そんな彼は職場に於ても重要なポストに居て新製品の開発開拓には彼を措いては考えられないアイデアマンであり、手腕家でもある。其の彼にも不安はある。それは非凡な彼を他の団体等から誘惑やら又は属望される恐れが無きにしもあらずだ。願わくば他へは絶対、目を向けずにBSのみに専念する様弥弥かけて祈る次第。

松本C隊リーダー 彼も又大須賀隊長同様CS隊発隊と同時にリーダーに就任した貴重な人材、1人息子の昭人君をCSに(現中三、休隊中)てる江夫人迄もCコースのリーダー講習に文字通り家族ぐるみのスカウト一家。面倒見の良い事と世話好きは当団随一で、一つ違ひの大須賀隊長を助け、総ての行事にコマメに奉仕を買って出る当団に於て欠かす事の出来ない男。縁の下の力持的姿こそ彼の身上であり、スカウト精神の本髄と父兄等

一同から敬愛されて居る。頼まれると断り切れない性分がスカウト以外の邪道にそれはしないかと、あ、之又苦の種。

桐畑BS隊長 非常に多忙な彼も又当団に無くてはならぬ存在だ。和尚らしからぬ和尚、先生らしからぬ先生、そしてリーダーらしからぬリーダー。こんな言葉がピッタリする彼は何処に居ても人気抜群。生徒児童にスカウトに叱っても嘸鳴っても好かれる人徳。此の隊長に此の親あり。彼の亡父(50年3月死亡、11月9日葬儀)こそ町村合併、浜北誕生以来通して18年間の長期に渡り教育長を務め学校教育、社会教育行政に多大な功績をのこした桐畑見竜大和尚だ。故人のスカウトひいきは特筆もので、あの日本ジャンボリーにも嵐の世界ジャンボリーにも多忙を削いで会場に駆けつけてスカウト達を激励して歩く熱心さは県下に市町村多しと言えども市長と連れ立って会場迄馳さんじた教育長は、そんなに数多くは居ないと今でも当団は、そしてBS浜北は誇りに思っている一事だ。

大須賀CS隊長 当団結成1年後にCS隊発隊と同時にCS隊長に就任したベテラン。彼は長女をGSに長男をBSにいわゆるスカウト一家。事BSに関するならば仕事も趣味も犠牲にして奉仕する当団きっての逸材。夏のキャンプ時等にCSの

三室BSリーダー 前記桐畑隊長が休隊？して居るので御登場願ったのが三室リーダー。ベテラン三室リーダーの人柄やスカウターとしての紹介は記す迄も無いので省くが、彼と当団の因縁は遠く10年位前になる。当時天竜1団の隊長だった彼は当地赤佐小学校の教員でもあ

た。学校で教鞭を振り乍らBSのPRに務め私達赤佐地内からも多勢の児童生徒等をBS天竜1団へ入隊させて居た。其の間、事ある毎に此の赤佐地内へBS浜北2団の結成を促し芽生ては立枯する事2度3度、やっと松井と称する物ずきな男

と知り合い(現団委員長)深い仲になり月満て重い陣痛の末オギャーと誕生した浜北2団産の親。子供の出来の悪いのは親の不運罪も埃り(誇り)も被るが常、又その立派に出来る人物ではある。

浜北第3団

はじめに 昭和46年2月14日結成し、本年は、満5周年を迎えようとしています。リーダーもC・S6名、B・S3名S・S2名が各隊に配属されるまでになりました。

そして、当団のリーダーたちは、現代の若い人にみられる一時的な好奇心からでなく、まさしく社会教育を良く理解して、奉仕の精神を遺憾なく発揮してくれる人々です。今後のスカウト活動がより充実することを期待しています。ではそのリーダーをご紹介します。

野中不二夫 カブ隊長、リーダー歴5年。昭和46年、浜北第3団創立以来、団と共に歩いてきたリーダー。浜北市青少年活動推進員もしており、団結成発起人の一人でもある。

温厚な人柄で、父兄からは好感をもたれ、デンマザーの指導も熱心。スカウトには厳しい面もあり、大いに期待するリーダーである。昭和48年C・Sウッドパッチ研修。現在、夜間に浜工で勉強している努力家。家族は、愛妻と子供1人の3人暮らし。会社員。

竹内保夫 カブ隊副長、リーダー歴4年。快活で大変温厚な人柄の持ち主。現在、浜北市青年団連絡協議会長をしており、多忙な毎日である。今後に期待大である。家族はご両親、妹、愛妻の5人暮らし。自営。

藤原すみ子 カブ隊副長、リーダー歴2年。余暇を最大限に活用して、少年達



後列左より阿部、平松、村松、の諸氏
前列野中、竹内、藤原、大橋

の活動に熱意を傾けているお嬢さん。副長として、常に隊長を助け隊の細かい面にまで、気を配って盛り立てている。

昨年10月には、当団推薦で応募して、競争率の高い試験に見事合格し、昭和50年度静岡県勤労青年海外派遣研修生として、イギリス等6カ国を訪問し、研修された。よって今後に地域で、指導者として中核的な動きを期待する。

家族はご両親、弟(B・S体験者)の4人暮らし。会社員。

大橋弘子 カブ隊副長、リーダー歴2年。健康で明朗な性格と人柄は、誰からも好まれるタイプのお嬢さん。常に隊長を助け、隊活動に忙がしく動きまわるなどして、スカウトに夢を与えてくれるリーダー。

指導ぶりは、隊にとってかけがえのない貴重な存在である。家族はご両親、弟2人、祖母の6人暮らし。会社員。

阿部全昭 ボーイ隊長兼シニア班副長リーダー歴2年。少年時にもっとも大切な人づくり教育と奉仕の精神を指導できる青年リーダーである。温厚で誠実な人柄と、少年の心理をよくとらえての指導ぶりは父兄、スカウトより厚い信頼を受けている。

気はやさしく、福祉的ボランティア活動のリーダーもしている。年齢と共に円熟期を迎え、今後に大なる活躍が約束されている。家族はご両親、弟、愛妻と子供1人の6人暮らし。公務員。

平松茂 ボーイ隊副長、リーダー歴2年。仕事に追われているが、余暇を見つけてスカウト活動してくれる熱意ある好青年。リーダーとしては最年少である。

副長として隊長を助け、隊の細かい面まで気を配って、盛り立てている。現在夜間、短大で勉強中。得意は歌と規律訓練の指導である。家族はご両親、弟の4人暮らし。会社員。

村松幹雄 ボーイ隊副長、リーダー歴0年。昭和50年10月「社会に何か役立つことはないだろうか……」と考え、自ら積極的に当団へ入団した。新人でホヤホヤの好青年。

いよいよ新春と共に、隊長を援け、スカウト活動に若さのこもった指導が、将来に期待されているリーダーである。

家族はご両親と3人暮らし。教諭。

おわりに この外に、カブ隊副長の伊藤まり子、伊藤史子、シニア班隊長の高田達二が登録されており、いざという時の助っ人にはこと欠かないのが当団の特色ともいえる。

名倉保氏



三ヶ日第1団

須賀一司氏



名倉保 B・S・隊長

昭和43年12月、リーダーの資格を得、翌44年3月B・S・第二隊結成と共に隊長となり隊員を指導し昭和46年4月S・S・隊長となった須賀氏の後を受けB・S・隊長となり今日に至る。

有線電信通信士の資格を持ち現在奥山郵便局長として勤務している。

須賀一司 S・S・隊長

昭和42年、リーダー資格を得ると共に団結成に努力し発団と共にB・S隊長として隊員を指導。昭和46年4月S・S隊発足し、S・S隊長として現在に至る。

曹洞宗金剛寺住職として大本山総持寺副監院三ヶ日町仏教会長、静岡県里親連合会長等の要職を兼ね亦三松幼稚園長として幼児の育成にも尽力している。

浜北第4団



前列左より若林、大城、川合(敏)、川合(守)
後列左より小杉、波多、吉田、川合(猛)の諸氏

大城 智CS隊長

昭和48年10月のCS隊結成より、浜北第四団CS隊の大黒柱である。職業を通じて得た知識、感により子供達のリードはバツグンで心望的である。家庭では、二児のよきパパである。浜北市立大平小学校勤務。

川合 守CS副長

CS隊発足より副長としての行の業績は非常に大きい。若さと情熱でスカウトと共に汗を流し仲間づくりをし、スカウトの心理をつかんでやさしくきびしく導びいてゆく。又、青年団の団長を勤めたこともあり、今も各方面で活躍している。CS隊発展の父親になる予定です。

のためますます活躍が期待される人物である。

川合敏治CS副長

CS隊発足より、大城隊長、川合守副長と共にCS隊発展に尽した業績は非常に大きい。子供好きで、スカウトより親しまれ、かつデンマザーからの信頼も絶大である。CS活動の要として今後もますます期待されている。待ちに待ったマイホームも近く完成の予定。お嫁さんも決まっており、多方面にますますガンバル人である。

若林敏代CS副長

昭和49年より副長となる。身は小さいが、バイタリティーのある行動派。子供達のよき姉として又、わが四団の花として、これから活躍が期待されている。今もBBSの会員として、活動しているすばらしい美女である。花も恥ぢらう乙女。浜北市農協勤務。

波多桂二BS隊長

浜北第四団誕生以来団、スカウトと共に前進して来た。若さいっぱいリーダーである。温厚な人柄で、各リーダーの信頼も厚く、スカウトにも絶大な信望がある。他にはやさしく、自己には厳しく仕事は黙々とやる浜北四団のリーダーの鏡である。恋愛で結ばれた奥さんとの間には、一男があり来年にはめでたく二児

吉田義行BS副長

早くより青少年教育に特に尽力して来た。当団発足に当っては誕生の原動力となり以来能取り役として一途な発展に尽くした業績は非常に大きい。団や関係機関との連けいに常に気を使ってBS、CS活動のバックボーンとなっている。家庭では、奥さんがデンマザー、息子がCS、娘さんがGSでスカウト一家。県立少年自然の家に勤務。

小杉利博BS副長

昭和48年ボーイスカウト指導者となり北浜小学校勤務の傍、副長として活躍している。昨年春結婚され奥さんの全市の理解を得てますます意欲的にボーイの訓練指導に当たっている。何んでも出来るスポーツ万能、頑強な心身と豊富な知識の上に溢れる抱擁力を持ち、スカウトからは大変親しまれている。我団のリーダーのホープでもある。

川合 猛SS隊長

団創立以来のリーダー。現在SS隊長。BS活動に限りない情熱を持ちいつも新鮮さを欠かさない。青年団活動、青年学級運営委員長、浜北市青少年活動推進員、県政モニターなど活動歴はかなり古い。活動には計画性があって力強い実践力を持ち、若い人たちからの信望も厚く、地域や家庭にあっても好かれ、まもなく父親となる日を迎える。今後の活躍が期待されるリーダーである。

引佐第2団

神谷恭二ボーイ隊長 発団以来の隊長で、頼まれればいやと言えない性分。隊員達のよき兄貴でありまたリーダーの取りまともめ抜ぐんである。家業の建材業に多大忙の中でもよくも思うくらいの奉仕精神には頭が下がります。

内山恵介SS隊長 今年から発足したSS隊を引きうけて、又BS隊のリーダーとして常に先頭に立って明るく活動して居ります。ヨットのベテランです。目下花嫁募集中。



神谷 恭二氏



内山 恵介氏



杉浦 豊B隊副長



堀内 勲氏

杉浦 豊氏

堀内 勲BS副長 常におとなしい彼がゲームや唄の時はその活発さには驚くばかり隊長を助けて多忙な会社勤めをやりくりし良く隊員の中にとけこんで居る好青年です。

とくに柔道、野球はお手のもの隊員のまともも上手で精神的にも充実して来たし将来のしみな一人です。この外に創団以来委員として活躍している内山一男、内山隆次郎両氏の応援を受けていることは心強い限りです。

結成10周年

日本ボーイスカウト
浜松第16団

1年前から「10周年を成功させよう。」と団会議を幾回となく重ね、記念行事を



10月5日に決定しました。あとはただ天候の良いことのみを願っていました。

ところが関係者一同の願いを他に台風13号による豪雨となってしまう果ては雷までもという、ここで一同極めて淋しい式典になるのではないかと心配するのみでした。

定刻40分前に尾崎副連盟長と稲森理事が続いて各団の団委員、リーダー、スカウトの皆様がお見えになり、結果、参加団は17団に、また来賓も多数ということで300名余の盛大な式典を挙げる事ができました。当団の不手際もあってご迷惑をおかけしましたが「そなえよつねに」の通りスカウトには晴天も雨天も何等変りのないことを痛感すると共に感謝の念を強めました。

定刻より12分遅れて式典開始。市川育成会長より各方面よりのご指導、援助に対する感謝と将来への期待を中心にあいさつがあり次に新谷団委員より16団創設

時にまつわる話を中心にBS関係者一同に感謝の意を話されました。式典は表彰来賓の紹介、来賓を代表して副連盟長・当町自治会長の祝辞をいただきました。続いて当団結成以来初めての単スカウト2名の誕生が告げられ認証があり、式典を無事終了いたしました。

式典後の行事予定としての鼓隊演奏は雨のため中止となり、まことに残念でありました。参会の皆様にごコーナーでお楽しみ願ったり社務所の2階で有意義な懇談会をもつことができましたことも大きな喜びでありました。午後4時30分閉会。ここに10年の節を刻み、20年の節と永遠のスカウトの道へ新しい一歩を踏み出すことになりました。

10周年記念を大成功裡に終ることができましたことは関係の皆様方の深いご理解とご支援のたまものであることを心から厚く感謝申し上げます。 弥栄

スカウティングの喜び

B S 浜松第7団 坪井 愛三

事務長より9月28日地区表彰の事前連絡を受けました。勤務の都合で出席できず大変残念に思っています。これを機会にスカウト運動をもう一度振り返って見ようと思います。

昭和41年、今24才の息子がボーイスカウト当時、故大橋団長の要請で団委員としてスカウティングの道に入りました。

私が団委員を受けたのも団長の話のみではありません。当時17年間の刑務所勤務中、年間数100人の犯罪者が出入する刑務所にスカウト出身者が只一人のみ入りました。いかにスカウト運動が社会に出るスカウト達に善悪の理性を身につけ、立派な社会人として巣立って行くかを知り強い関心と興味を抱いて居たからです。

そのスカウト出身者は常に立派な生活態度で模範囚として仮釈放となり、今は立派な社会人と成って居ります。

彼の隊長であった方が面会に来て励まして居た事を今でも忘れません。

当時7団ではリーダーはボーイ隊2名、

カブ隊も女性リーダー2名と言う少数でした。43年にはボーイ隊長、副長共に転勤の為リーダーなしと言う時もあり、大橋団長と共に苦労した思い出も昨日の様です。

隊集会も私が変りに行かないスカウト達と遊ぶ事を知りました。上級班長であった息子達にささえられた苦しい思い出も、当時のスカウト達が今でも大学生活中の者も、働いて居る者が遊びに寄ったり、手紙をくれたりし、すっかり楽しい思い出に変わって来て居ります。

44年カブ隊も隊長が病気で倒れ、副長も結婚の為退団しリーダーなしの状態。ついに49才の私が18才のお嬢さん方と一緒に講習会を受ける事に成りました。そしてカブ隊を4年、板倉、永田、浦上と三人の立派なリーダーを得ました。

49年、又してボーイ隊の隊長の転勤で1年、長谷、酒井両リーダーの応援を受ける事が出来ました。

スカウト25名は全員カブ隊長当時のス

カウトですので、カブの延長を思わせる楽しいスカウティングの1年間でした。

日本ジャンボリー7名参加と言う良い思い出も、又本年1月には大橋団長の急逝等、波乱万丈の10年でした。

今ではリーダー11名、実習所、研習所修了者も多く弥栄を思われる団に変わりました。これも地区の影の力添や各団リーダーの協力あればこそと深謝し、まだまだ他団の組織に遠く及びませんが、私も本年より団委員とし、又リーダーの協力者として努力して行きたいと思って居ります。

振り返り見ますと、多くの先輩諸氏の苦勞の一部を学び得ましたし、スカウト父兄の知人やリーダーとして多くの協力者も得ました。そして伸び行く若芽がスクスクと育ち立派な社会人に旅立って行き、私の様な人間にも便りをくれたり、訪ねてくれる。こんな嬉しい人生をスカウティングに依り得た事を心から喜び、じっくり噛みしめて居ります。

ヨーロッパ見たまま

浜北第3団CS副長 藤原 すみ子

10月16日より第6回静岡県勤労青年海外派遣団の一員として、ヨーロッパを廻ってまいりました。

訪問国はイギリス、フランス、オランダ、東西ドイツ、スイス、イタリアの6カ国ですが、一つ一つの国にそれぞれの思い出が残っています。

ロンドンでまず感じたのは緑や公園がとても多いという事です。そして銅像が立ち並び、木々の緑とよく調和していました。市内で建物の外壁を残し、内部だけの改造工事をしているのを見た時、歴史を大切に、誇りと自信を持っている国民性がうかがえました。

パリのルーブル博物館で驚いた事は美術品がかなり無造作においてある事です。ミロのビーナスは玄関正面の廊下に囲いも何もなく置いてありました。絵画も壁にかけてあるだけでしたが、誰もさわろうとせず観賞していました。自国の歴史を誇りと思い、芸術を大切に思わなければこうはならないでしょう。日本は産業の面では欧州に追いついているようですが精神文化の面では、まだまだ学ばなければならない点が多いようです。

さて、この研修の山場ともいえるベルリンの見学です。検問のきびしさや警察犬やジープでの警備などを見ると、まだまだ戦争中という感がしました。東側から逃げようとして殺された人達の十字架を見ると、一日も早くこの壁がとりのぞかれる事を祈らずにはおれませんでした。



S 50.10.19 パリ・エッフェル塔前にて

欧州のすべてをたった17日間で学ぶ事は不可能ですが、この研修は私にさまざまな事を教えてくれました。国は違っても人間は皆同じであるという事や、欧州の歴史や文化は確かにすばらしいが、日本にもそれ以上のものがあるという事などです。日本の良さを正しく理解し、誇りを持って生きていけるよう努力したいと思います。

楽しかったオリエンテーリング

浜北第4団カブ隊 今村 雅人

ぼくがガブスカウトにはいつ、まだ間もないと思っていたが、いつの間にか三年がすぎようとしている。今までたくさん活動をしてきたが、一番楽しかったことは観音山へ行き、オリエンテーリングをしたことだ。観音山へ着いた時、「早くオリエンテーリングにならないかなあ」とわくわくしていた。ところが当日になると「迷子にならないかなあ」ととても心配になってきた。いよいよスタートだ。ぼくたちは二番めにスタートした。山の木や草は、せいがとても高い。今にも迷子になりそうな気がする。険しい山道を歩いていくと、前の方で「あったぞー」という声が出た。走って声が聞こえて来た方へ行ってみると、みんなもう印をつけていた。ぼくたちも、さっそくつけて次の地点へむかった。なかなか見つからない。ここはとても坂が急で、ちょっとでも足をすべらせれば、ころげ落ちて木にぶつかってしまいそうだ。ぼくたちのグループは二手に分かれて、さがしてみることにした。ガサガサ音がしたので行ってみると、他の組の人たちだった。みんな早くさがして一等をとろうと真険な顔だ。それから後は、おもしろいように、かんたんに見つかった。結果はわりあい早い方だった。くたくたになって帰って飲んだ時の牛乳は最高においしかった。

この活動は、カブスカウト生活の中で最も思い出に残り、新しくボーイスカウトへ進んでも、またオリエンテーリングにちょう戦してみたいと思う。

浜松地区大会・県大会に参加して

浜北第3団 カブ隊 松下 和広

9月28日、地区大会が中田島であった。ぼくたちは、山下団委員長さんが、マイクロバスを運転してくれて、国道一号線のバイパス道路を通過して、会場にきました。もうたくさんのスカウトがきていました。ぼくのお母さんも参加した。

いよいよ大会が始まり、やくいんの人のお話しがあり、つぎにらいひんの人のおいわいの言葉があった。そして、こっきを上げた。「きみが代」を歌った。こうして式がおわった。

カブスカウトは、たこ上げを始めた。みんなビニールでつくった、たこを上げた。ぼくは、しょうじ紙をつかってつくった。ぼくと同じ人もいた。ほうそう紙で作った人もいた。ぼくが上げた、たこはあまりよくとばなかった。まだ上げていない人もいた。

おべんとうを食べようとしたとき雨がパラパラふりだした。ごごは、うみの方へ3〜4人でかけていった。ボーイとガールがつりをしていた。ほかのゲームのところへ行った。ダンボールのトンネルをやった。その中は、まっ暗だった。すなが足にべとべとついた。でもとても楽しかった。つぎに、ゆみやでふうせんをわろのをやりました。うまくできなかつた。

こんどは、うちゅうひこうテストをやるうとしてばんについた。そのとき、もつとひどく雨がふってきたので、やめてかっぱをとりに行った。

雨がふりだしてしまい1時間も早く閉会式をして、かいさんした。ぼくらは朝きた道を通って帰りました。雨にぬれたけど、たこ上げやゲームなどいろいろなあそびでとても楽しかった。

雨の中の野営に参加して

ボーイ隊 ライオン班 中野 岳志

今度の浜北第3団の野営は、8月16日から17日の2日間ですが、運悪く雨の中で行った。途中で、舎営となったが、苦労した点は、野営と変らないだろう。

テントを二人で張った。まだなれていなかったために、ずいぶん苦労した。だから、テントが張れた時は、とてもうれしかった。そしたら、雨。

舎営に切り換える時、なんだか、さみしかった。しかし、あの時舎営にして、よかったと、しみじみ思う。それは、テントの中が水びたしになったことだが、それよりも、寒かったからだ。

その後、夜の集いをやり、楽しくすごせた。疲れた。夜は、12時半から6時まで、ぐっすりとおねむることができた。

次の朝、起きて山を見た。もやがかかっている、新鮮な朝だ。新鮮な空気の中で、全員でラジオ体操をした。昨日の疲れは、すっかりとれたようだ。

そして、朝食がすみ、スイカをいただいた。そのスイカのうまかったこと、忘れられない。

時は、どんどんすぎていく。そして帰る時、やっと家へ帰れるという、うれしさとは別の、よくここまでやりとおしたという喜びがあった。

話しは変って、食事の件だが、僕達の班は苦労した。材料がどこかえいってしまった。コゲた。水を入れすぎたなど、なみたいていの努力ではなかった。だから、食事の味も、VERY-GOODだったが、次の日から腹の調子が悪くなり、医者に行った。

最後に、このキャンプで学んだことは、(1)仲間は多勢いた方がよい。(2)どんな悪い条件の中でも続けるところに値打ちあり。(3)知識を精一杯つかい、それなりに努力。

富士グリーンキャンプ場について

柴田 薫

すでにご承知の方も多いと思いますが富士山二合目の表富士周遊道沿いに富士グリーンキャンプ場があります。このあたりは国有林で東京営林署が管理していて自然を大切にしておりますが、この程度県連盟が数度に亘り交渉の結果、現在一般利用されているキャンプ場の奥に全く新しいキャンプ場を確保してくれました。面積は10.56ヘクタールと広面積で未開の地で自然に親しむ絶好の野営場です。今後この野営場に水汲場、広場、便所など多くの設備の建設を要望し了解を得ていますが、昭和51年度に利用度が少ないと我々が思うとおりの建設がしてもらえないばかりでなく、この野営場利用も出来なくなる事も考えられます。我々ボーイスカウターは大自然に親しめる野営場がなく困っているのでも此の願ってもない話をものにしたいと思っています。それには各隊での利用を切望します。

＜うごき＞

10月16日～19日 W・B研修所CS課程 静岡第11期開設 於・浜松青少年の家

10月17日～19日 JOTA 於・細江町
18日 地区コミ会議 於・県民会館
20日 進捗委員会 於・法林寺
〃 BS隊長会 於・法林寺

- 21日 組織拡張委員会 於・法林寺
- 23日 地区委員会 於・法林寺
- 24日～27日 W・B研修所SS特修第5期開設 於・山中野営場
- 25日 県西部6地区県大会決算報告及び反省懇談会 於・法林寺
- 27日 地区名誉会議 於・法林寺
- 11月7日 指導者養成委員会及び浜松トレーニングチーム打合せ懇談会 於・法林寺
- 8日～9日 ロータリークラブ地区大会奉仕 於・市民会館及びグランドホテル、市内各所
- 9日 BSソフトボール大会 於・航空自衛隊球場
- 10日 南部ブロック会議 於・法林寺
- 14日 財政委員会 於・法林寺
- 15日 地区コミ・事務長会議 於・県民会館
- 15日～16日 南部ブロック・リーダー研修会 於・舞阪町・舞阪町民センター
- 16日 中央ブロック会議 於・法林寺
- 20日 富士山二合目富士グリーンキャンプ場現地視察
- 29日 SSリーダー会 於・市川事務所
- 30日 県西部SS研修会 於・浜松青年婦人会館
- 12月5日 曳馬小学校区説明会
- 11日 野営行事委員会 於・法林寺

あ と が き

◎謹んで新年の弥栄を申し上げます。
昭和51年も諸君の元気なスカウト活動の年であることを望みます。
◎62号を年末までにお手もとへ届くよう、浜北、引佐ブロックの担当にて鋭意編集しました。次号63号は中央ブロック担当にて発行します。ご期待下さい。
◎浜松地区の組織拡大も着々と進んでおります。このたび志都呂町にカブ隊、曳馬町にカブ隊、ボーイ隊が発隊する予定です。スカウト仲間をもっともっと増やそう。(ST記)

発行所 第62号

日本ボーイスカウト浜松地区事務所
浜松市利町70-4 児童会館内
編集発行責任者 山中将司
印刷所 (株)朝日堂印刷所
昭和51年1月1日発行